

女性のための防災・減災リーダー 養成講座報告書

「ふじのくにNPO活動基金（テーマ指定）静岡トヨタ防災活動寄付事業」

開催日：平成25年9月28日（土）、29日（日）
会場：静岡県原子力広報研修センター

主催：御前崎災害支援ネットワーク

後援：静岡県、御前崎市、島田市、磐田市、掛川市、袋井市、菊川市、牧之原市、
吉田町、（特非）静岡県男女共同参画センター交流会議

協賛：（株）NTN御前崎製作所、（株）木村鋳造所、浜岡綜研（株）、エイケン工業（株）、
広和工業（有）、（福）賛育会東海清風園、（株）野川商店、（福）御前崎厚生会灯光園、
（株）松本印刷、（株）売茶坊まるよ、（株）焼津冷凍、タクミ建設（株）、（順不同）

《女性のための防災・減災リーダー養成講座 報告書》

早朝にも関わらず市内外から多数の参加を頂きました。また、県外、市外の方は宿泊をするなど積極的に2日間の受講をしていただいたことは本当にうれしく、また責任を感じた次第です。さらに講師の皆様には公私ともにご多忙のところを企画に賛同いただきご協力を賜り誠にありがとうございました。各方面での皆様のご協力を感謝申し上げます。ありがとうございました。

★1日目（28日土曜日） 参加人数 67名（男性15名）

*1時限目 「静岡県第4次被害想定の説明」

講師：杉山隆通氏 静岡県危機管理情報課 課長代理

【参加者振り返りから一部】

- ・レベル1と2があることが分かった。津波は5分にも満たないことが分かった。家族と話し合って今一度対策を検討したい。
- ・子供の方が震災を体験する確率が高いからこのような話は教育プログラムに取入れ、中高で講演があっても良いと思う。
- ・「自然は人間にとって都合のいいものばかりではない」という言葉に納得しました。
- ・今までは災害について深く考えていなかったのですが、今日参加して真剣に考えることができました。
- ・耐震、補強によりかなり被害が少なくなることが良くわかった。自助、共助、近助、公助、平時の生活から落ち着いた対応ができるように日々人とのつながりを大事にしていきたい。



*2時限目 「災害後の心のケア」

講師：小林朋子氏 静岡大学教育学部 准教授



【参加者振り返りから一部】

- ・様々なストレス反応に対しどんな対応が必要かが理解できた。
- ・できるだけ安心感が得られる落ち着いた生活を送れるようなフォローの仕方を教えていただきました。心配りができる女性ならではの講義だと感じました。
- ・女性の視点に立った考え方などを聞いて男性では判りにくい部分を教えて頂いたと思う。
- ・子供の視点から考えることは必要だし、大人がもっとしっかりとした情報やケアの方法を知っておくだけでも大きく違うと思った。
- ・自分もストレスを受けやすいので、聞いておいて良かったしケアができる言葉かけをできるように心がけたい。
 - ・リラックス呼吸法など思い出してストレスを感じたら自然に体を動かさそうです。

* 3時限目 「避難所運営ゲーム」演習

講師：戸塚清乃氏 静岡県西部危機管理局 主査

【参加者振り返りから一部】

- ・自主防などで皆で少しずつでも模擬体験をしていけば良いと思う。
- ・今回のグループワークは女性が多かったので意見を出しやすかった。
- ・避難所で生じる様々な問題に対して、地域で事前に話し合っておくことが大切だと感じた。
- ・親を亡くした子供の対応、障害者や痴呆の人の対応、ペットの対応が難しかった。
- ・短期間でこんなに処理しなくては…自分自身がパニックに陥りました。
- ・様々な事情をかかえた人たちが避難してきて対応するのは前もってあらゆることを想定して準備しておかないと大パニックになると感じた。こうした演習を体験できて良かった。



* 4時限目 「図上訓練」DIG演習：小村隆史監修 常葉大学社会環境学部 准教授

講師：落合美恵子氏 御前崎災害支援ネットワーク 会長

【参加者振り返りから一部】



- ・「予防に勝防災はなし」「避難で命は守れるかもしれないが、避難で人生は守れないし、避難で故郷も守れない」という基本的な考えは東日本大震災を考えたらく理解できた。
- ・家の耐震をすることが自分のためでもあり、避難する際の皆さんの迷惑にならないという意味が良くわかった。
- ・白地図とハザードマップを対比させて危険個所を把握することはとても大切なことだと思った。自分の市の白地図でやってみたい。
- ・阪神の時の映像を見て災害に対する思いが真剣になりました。
- ・ブロック塀、昭和56年より前の建物は自分達のみならず地区の人の命も奪うもの、助成金など使って修理したり、変えたりするべきだと思った。

◆ 1日目のアンケートより

- ・女性ばかりなのでグループワークの時に意見を出しやすかった。
- ・女性のための防災講座と聞いて参加した。楽しく参加できた。地元に戻って協力できることはしていきたいと感じた。
- ・「女のくせに」とか「女は炊出しをしていけばいいのだ」という風潮があり自主防災会の人にも受講してほしいと思った。
- ・家族を守るための防災は女性が特に考えなくてはならないと強く思いました。
- ・初めてのことでとにかくとても勉強になりました。いかに大切なことを考えていなかったか、考えなければならぬことがこんなに沢山あると改めて考えさせられた。

★2日目（29日日曜日） 参加人数78人（男性15人）

*1時限目 現場に学ぶ・多様な人々のニーズに応える

講師：丹羽雅代氏 東日本大震災女性支援ネットワーク 世話人

【参加者振り返りから一部】

- ・防災・減災への女性の力は不可欠です。まずは女性自ら意識を変え地域を変えていかなくてはと思いました。
- ・トイレの数男性1、女性3の割合で国際基準があることを知らなかった。日本では男女共同参画の視点がまだまだ足りないと感じた。
- ・一言で支援といっても受ける側には本当に数限りない事例があつてマニュアルの無い実情が分かった。
- ・この話をそのまま自治会のトップの方、各企業や市役所職員のトップの方に聞いていただき理解して頂くのも意識を広めていく手立てではないでしょうか。



*2時限目 地域を知り、防災を考える - 最近の豪雨災害・津波災害事例から学ぶこと -

講師：牛山素行氏 静岡大学総合防災センター副センター長 教授



【参加者振り返りから一部】

- ・近くに以前大きな被害を出した河川があります。身近にがけ崩れも心配される個所もあります。改めて地域の地形について考えます。
 - ・今までは要援護者を災害時どうやって避難させるか？を考えてきましたが、これからは要援護者にならないことを考えたいです。
 - ・想定はあくまでも仮定の上であつて情報に振り回されないようにしたい。本質を見極めて
- 「命を守る」ために正しい知識を得て何をすべきかを考えたい。
- ・以前から牛山先生の話を知りたいと思っていた。流れる水は怖いこと。むやみやたらに避難所に行かない。津波災害以外にも対策があるので忘れずにやっておきたい。

*3時限目 死者から見た防災対策

講師：西山明儒氏 徳島大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 教授

【参加者振り返りから一部】

- ・事実から見た防災、改めて考えさせられる内容だった。
- ・家具を固定するより先に家の耐震策をする。
- ・高度成長期に犬を使って窒息の実験をしていたのはショックだった。
- ・家族や大切な人の死は死体を確認し死者を弔うことで次のステップに進めると理解した。



- ・掛川市では家屋の倒壊で死者は600名ということは知っていた。しかし、具体的に圧死、外傷性窒息死など遺体からの視点で話が聞けたことは勉強になった。
- ・防災に答えは無いけれど生きるために自分を守ってくれる家をちゃんとしたい。

* 4時限目 されど災害ボランティア

講師：落合美恵子 御前崎災害支援ネットワーク 会長



【参加者振り返りより一部】

- ・話を聞いて本当にそうだなと思いました。自主防災会との上手な連携ができるように発信していきたい。
- ・行政で断られたこともボランティアが持って行けば被災者にとって必要な物だったことが分かった。
- ・ボランティアができるように自分の命、家族の命を守り少しでも皆さんのために日々頑張ります。

* 5時限目 救命講習

講師：小川雅康氏、鈴木一郎氏 御前崎災害支援ネットワーク理事

【参加者振り返りより一部】

- ・救命（人工呼吸）を初めて体験できたこと、次のステップにつなげたい。
- ・機会がなく、救命講習ができて良かったです。
- ・救命講習AEDの使い方が分かった。
- ・救命講習をやってくれて良かった。今度ちゃんと受けたいです。
- ・赤ちゃんの時の対応が指2本で大丈夫と言ったが、何歳かわからない時は迷うなと思った。



◆ 2日目のアンケートより

- ・家庭、職場、地域においても女性の役割が重要だと再認識できました。
- ・女性の目線の防災の話を聞いて良かったです。
- ・心のケアの話はすべて感動しました。気が付かないことがまだいっぱいあると思いました。受講して良かったです。
- ・この養成講座は中身が濃く為になることばかりでした。
- ・ただの防災講座だと男性が多く参加されるのですが、「女性の」と謳ったことで女性が参加しやすかった。
- ・この研修を通して女性がリーダーになる必要性が分かりました。
- ・誘われて軽い気持ちで受講しましたが、大変勉強になりました。もっともっとたくさんの人に受講していただきたいと思いました。
- ・スタッフの方がキビキビ動いてとても気持ち良く受講できた。地域に帰って皆さんに伝え広めていきたい。

【養成講座を終えて】

東日本大震災では岩手県大槌町や他の災害被災地へ何回となく災害ボランティアとして災害現場に赴き、その経験の中から様々な問題にも遭遇してきました。 仮設トイレが和式ばかり、避難所ではカーテンやパーテーションの仕切りのみ。ある避難所では生理用品を袋からバラして男性が数個ずつ女性に手渡ししていたという現状は女性にとって避難生活をより過酷にしています。

女性が立ち上がり授乳室や男女の着替え場所、DVやストーカーなどの相談窓口を設けるなど工夫をした避難所もあります。

静岡県内は100%に近い自主防災組織率ですが、自主防災組織に女性の役員がわずか1%という現状です。私たちは改善を求めていく上で女性に少しでも専門的知識を得ていただき自信を持って発災前から防災・減災の場に参画してほしいとこの養成講座を企画しました。皆様のご協力の甲斐あって参加者からは「大変充実した内容で、今後は積極的に参画したい」「今まで以上に自主防災会に女性を起用するように促したい」「女性だけなので意見が出しやすかった」などのご意見が出て満足して頂きました。

講師の皆様にも「女性が真剣に受講していた姿はこれからの期待ができる」と好評でした。今後も私たちのできる活動の一つとして女性のための防災・減災リーダー養成講座を継続していく決意に至った今回の養成講座でした。皆様のご協力を心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

《防災・減災リーダーとなられた人数》（条件は2日間の受講を終了した者）

- ・女性 44名
- ・男性 11名

《市町別参加者数》（ ）内は男性数

- ・御前崎市 30名（10名）
- ・菊川市 20名（1名）
- ・掛川市 16名（4名）
- ・牧之原市 5名（2名）
- ・磐田市 4名
- ・藤枝市 3名
- ・裾野市 1名
- ・浜松市北区 2名
- ・浜松市中区 2名
- ・浜松市西区 1名
- ・沼津市 1名
- ・静岡市駿河区 3名（1）
- ・森町 1名（1名）
- ・神奈川県 1名

平成25年10月28日

(旧) 御前崎災害支援ネットワーク会長 落合美恵子
(新) 特定非営利活動法人御前崎災害支援ネットワーク
代表理事 落合美恵子
スタッフ一同

〒437-1612 静岡県御前崎市池新田5408-1
TEL/FAX 0537-86-2053